



2022.1.21

関係人口連続セミナー2021

「関係人口」を いかに地域づくりに 活かすのか

田口 太郎／徳島大学総合科学部

taguchi@tokushima-u.ac.jp

<http://www.taguchi-studio.net>

 taro_taguchi

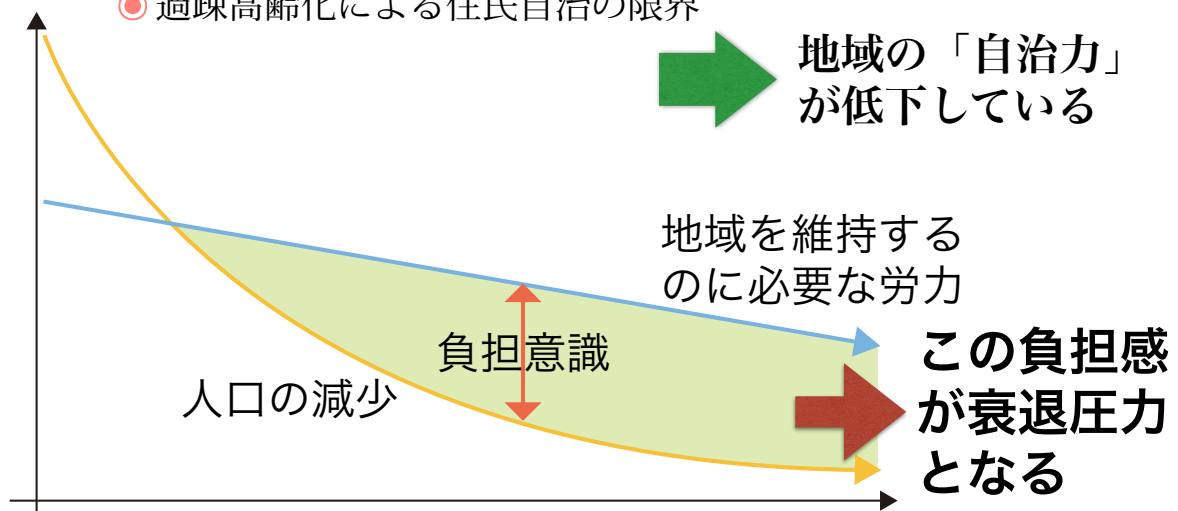
1

「関係人口」をいかに地域づくりに活かすのか

「地域の衰退」とはなにか？

地域に必要な力と担い手数とのギャップ

- 財政健全化に向けた行政職員の減少、行政サービスの減少
- 過疎高齢化による住民自治の限界



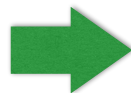
2022年はどういう年か

団塊の世代（S22生まれ）が後期高齢者に

- 地域の最大勢力である団塊の世代
- 地域の維持管理の上でも最大の戦力
- 高齢者になっても元気だが、後期高齢者（75歳超え）となると、体力も落ちてくる

2022年問題

- 団塊の世代が引退し、地域の気力・体力が一挙に衰える
- 高齢者が免許を返納すれば、地域での暮らしは立ち行かない
- 団塊の世代が75歳を超える前に、2022年以降の地域の維持管理の方法を検討していく必要がある



時間があまりない！

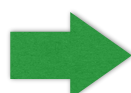
5年後はどういう年か

団塊の世代（S22生まれ）が80代に

- 地域の最大勢力である団塊の世代
- 地域の維持管理の上でも最大の戦力
- 高齢者になっても元気だが、80代となると、いよいよ要支援となる方も増える

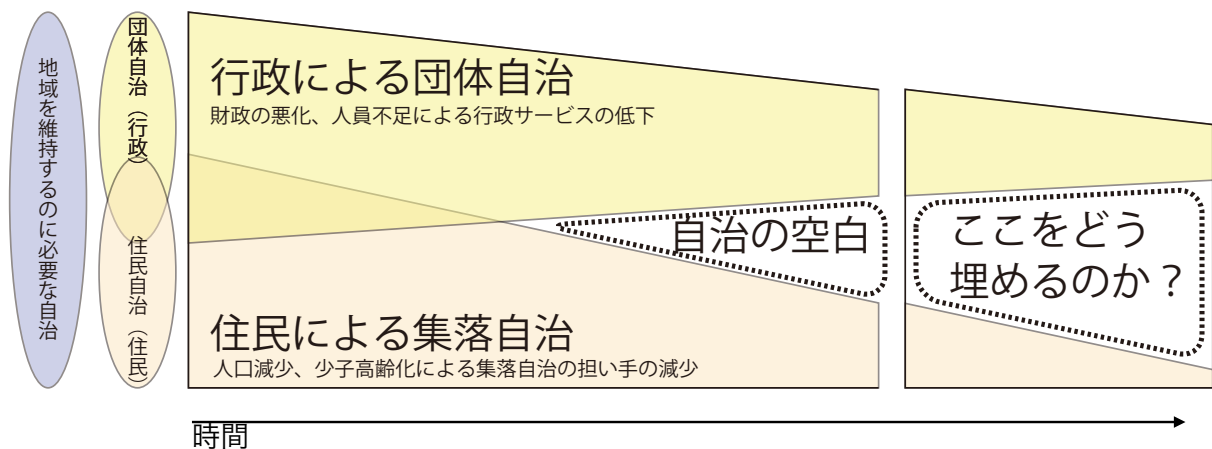
2027年問題

- 団塊の世代が免許返納のタイミング（80前後）に
- 自動車移動を前提とした地域生活の困難化
- 間に合わない自動運転の普及



個人運転移動に依存しない
ライフスタイル獲得の必要

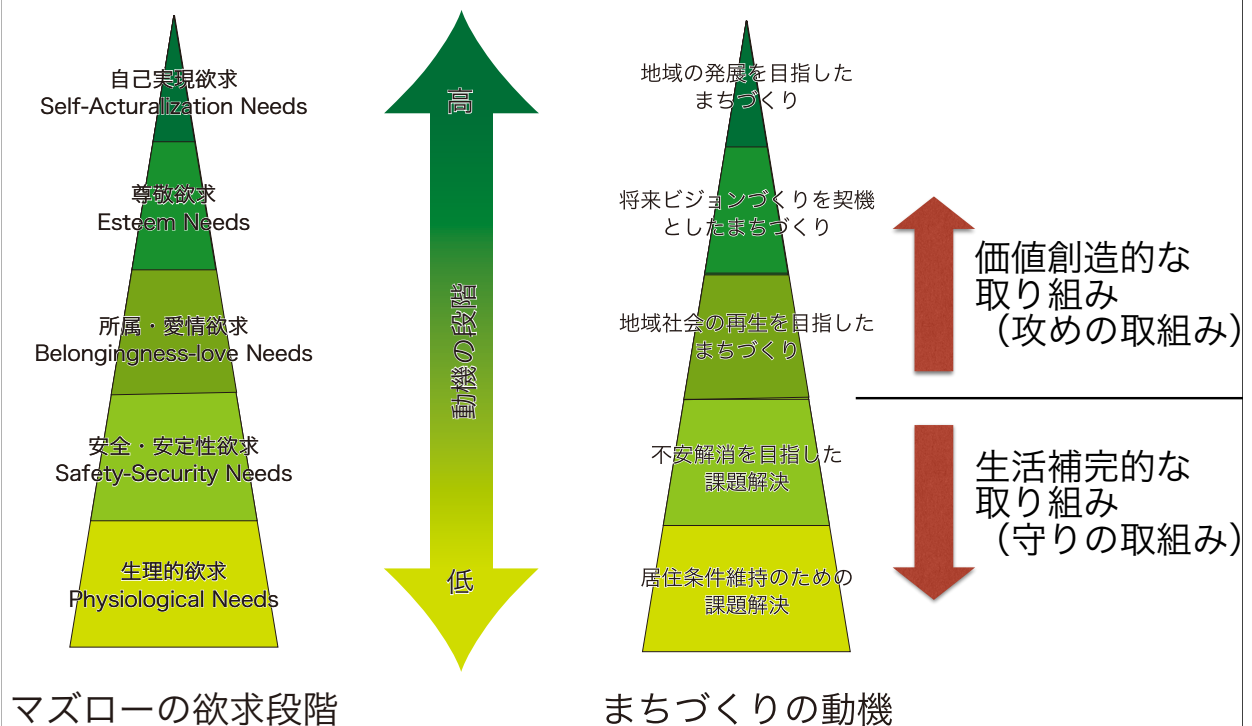
自治の衰退と“自治の空白”



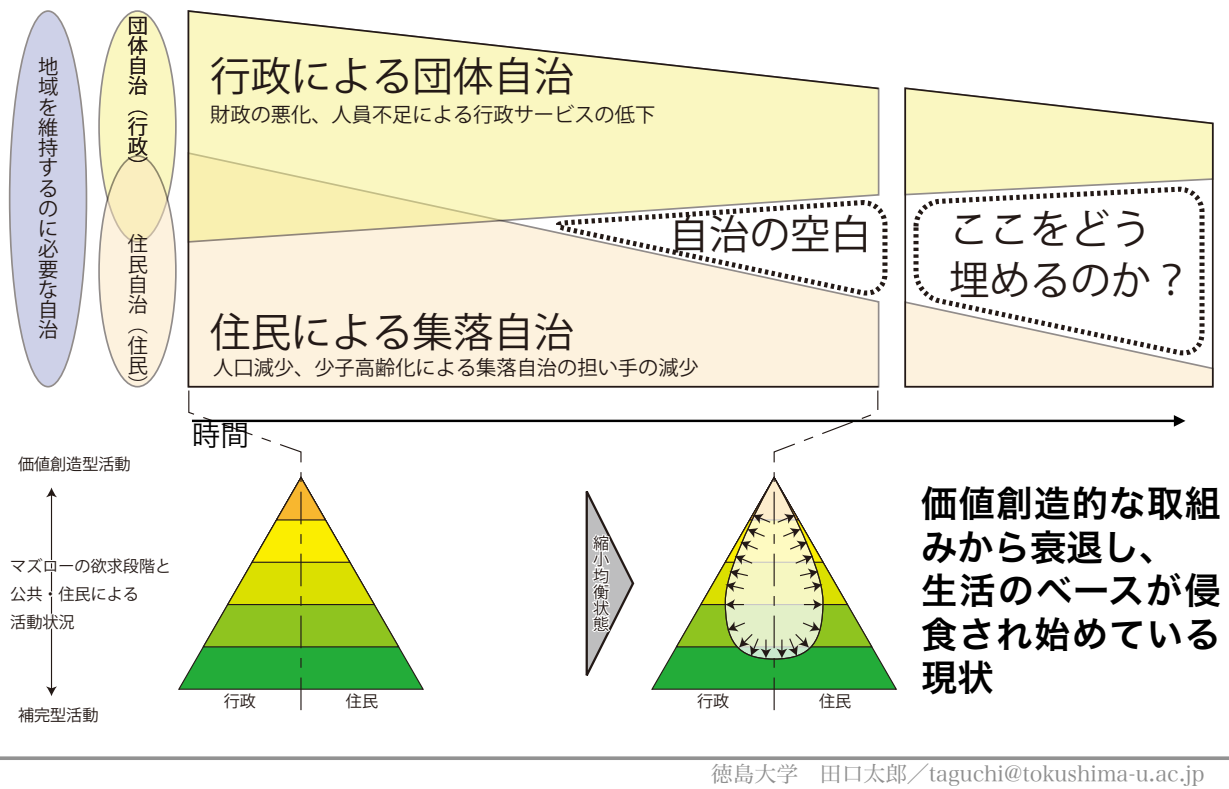
行政と住民の衰退から生まれる“自治の空白”

- 自治の空白をどう埋めるか?
- 地域を維持する「必要量」と「実際量」のギャップを埋める

地域づくりの動機

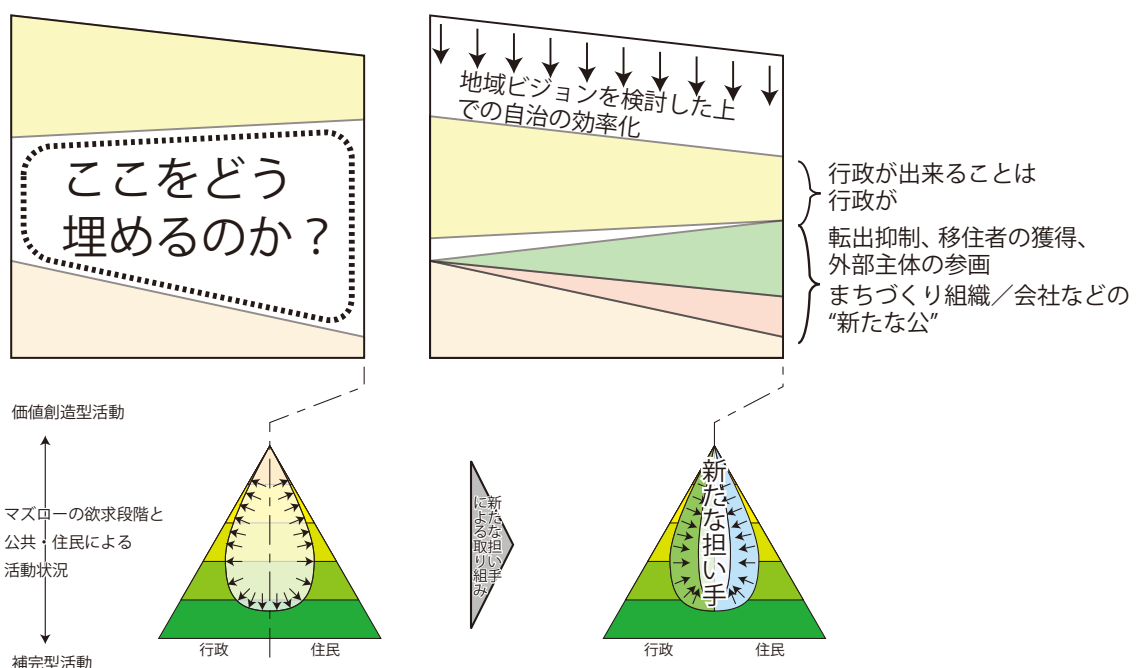


地域を維持する主体の体力低下と再生主体



7

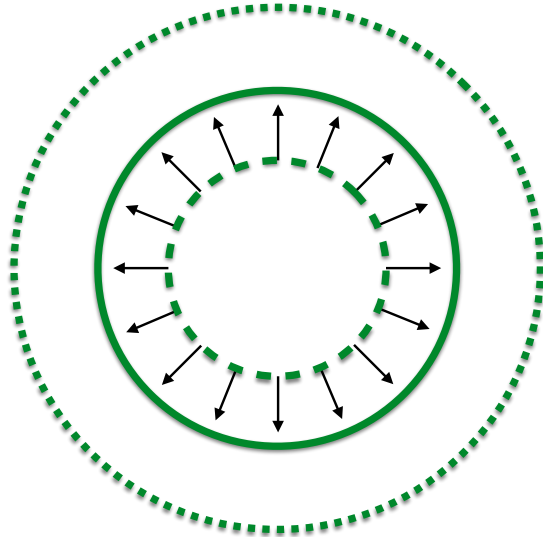
地域を維持する主体の体力低下と再生主体



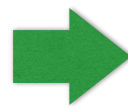
8

「担い手の不足」をどう捉えるか？

「住めば皆担い手」とは限らない 移住者

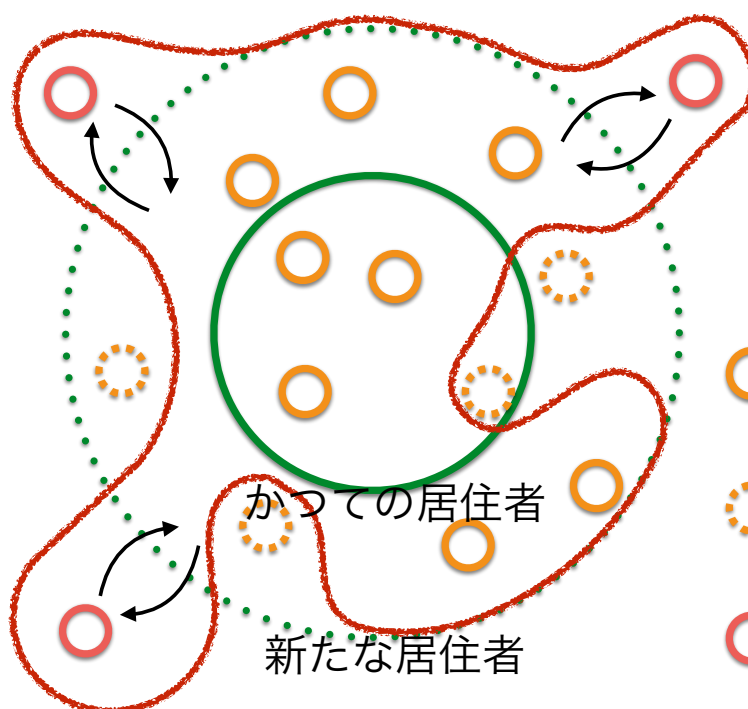


- 地域の状況を知らずに入ってくる移住者
- 人間関係の煩わしさから開放されたくて入ってくる移住者
- 田舎でビジネスでもしたくて入ってくる移住者



「移住」ですぐに解決
する話ではない

新しい担い手はどこにいるのか？



これからの
地域の担い手

- 地域活動を担う居住者
- 地域活動を担わない居住者
- 地域にいないが、地域に関わる人

自治のカタチのリ・デザイン

地域づくりとは、地域の「自治力」を高める取り組み

- かつては集落自治により、地域社会は自律的に運営されてきた
- 戦後の民主化／政府の拡大、によって役割が変わった
- 人口が減少し、行財政が悪化し、価値観が多様化する中で、地域それぞれが再び「自治力」を取り戻す必要がある

自治力は何によって規定されるか

- 企画力
 - 地域の状況に応じて必要な手立てを企画立案する
- 実行力
 - 立案した手立てを実行する



しかし、この双方とも
衰退させている
少子高齢化・人口減少



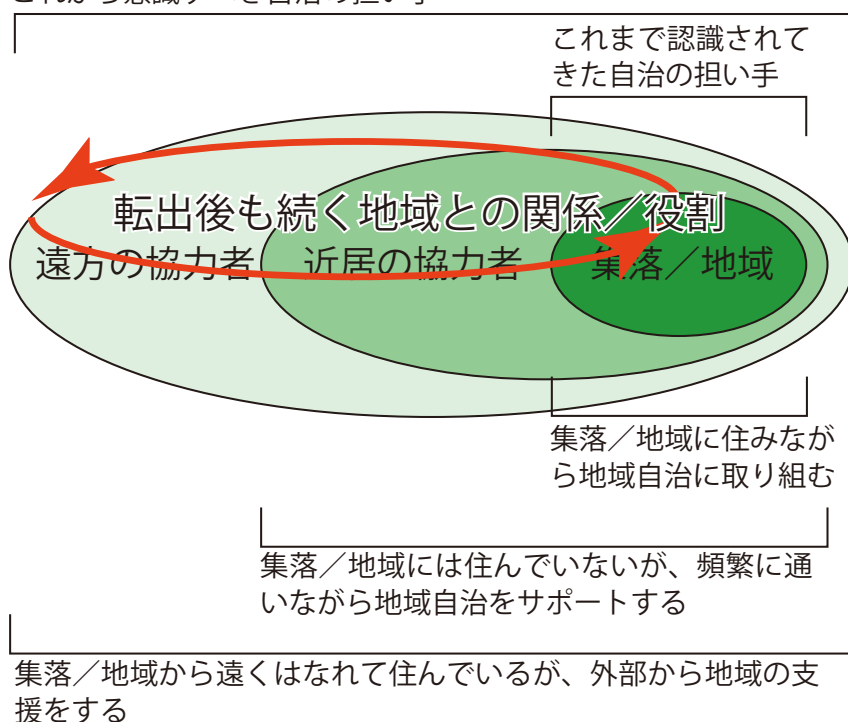
地域の外から
協力者を得る必要

徳島大学 田口太郎 / taguchi@tokushima-u.ac.jp

11

「地域自治の担い手」の多様化と流動性

これから意識すべき自治の担い手



徳島大学 田口太郎 / taguchi@tokushima-u.ac.jp

12

地域の自治力再生に寄与する「関係人口」

ただ、地域を訪れる「自称ファン」は関係人口か？

- 地域との信頼関係があり、地域によって“有用であるか”を考える必要がある
- 地域が求める「関わり」と、外部者が求める「関わり」のギャップを埋める

地域が主体的に外部者に期待する役割を自覚する必要

- 外部者から地域への“片思い”
- 地域が外部者を受け入れることによる“交流疲れ”
- 地域が自覚的に外部者との関係を検討する必要がある



多くの地域は、人口減少による地域の衰退の自覚はしつつも、何をしたら良いのかわからずにいる

「地域」の範囲を考える

行政のための「地域」／住民のための「地域」

- 単純に「地域」と言ってもそれぞれの認識範囲は違う
- 基礎自治体の範囲を「地域」と認識しやすい行政
- 住民自治組織の範囲を「地域」と認識する住民



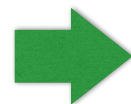
関係人口施策における「地域」をどのように設定するのかによって、アプローチが取組みが変わる

住民のための「関係人口」の役割

- 地域自治の担い手、地域活動のサポート

行政のための「関係人口」の役割

- 専門性の高い技能の提供



必要な「関係人口」施策がどこに位置づけられるのかを考える必要

出口としての関係人口

新たに入ってくる人との信頼関係づくりは難しい

- 地域住民は生活を通じて、信頼関係を構築する
- 「関わり方」のイメージも活動を通じて認識されるため、入り口からの信頼関係は若者同士などの“気の合う”属性同士でないと難しい

出口としての関係人口

- 一定期間の関係を経て、距離が空いてしまう際に「関係人口」に“とどまる”ことで関係性や役割が継続する
- “良い関係”が築けた地域との「関係人口」化が進み、“関係悪化”した地域とは「関係人口」化しない

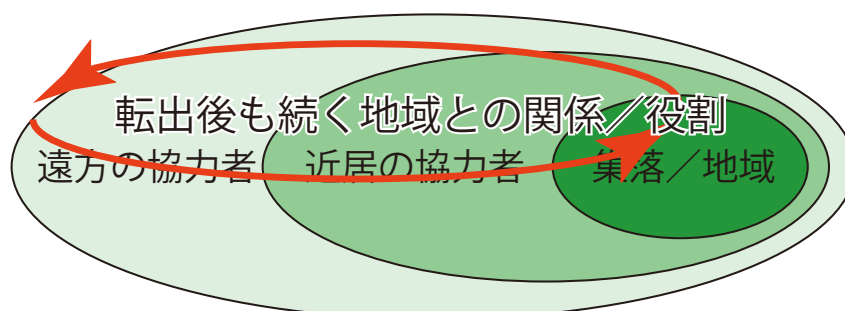


“モテ地域”
であるか／否か

出口としての関係人口

地域の「関係性」の中にとどまる転出者

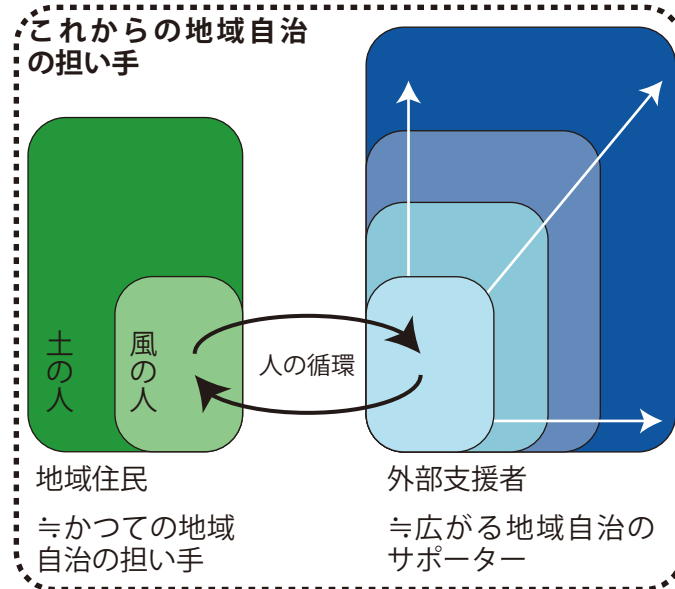
- 転出者が地域との関係を継続する地域は外部支援の輪が大きく広がる
- 転出者をはじめ、関係性が遠のく人材との関係が悪化する地域は外部支援の期待が少ない



循環が地域の可能性を広げる

一定量の人口循環のしくみづくり

- 伝統を継承する「土の人」／風通しを良くする「風の人」



徳島大学 田口太郎 / taguchi@tokushima-u.ac.jp

17

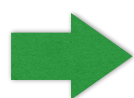
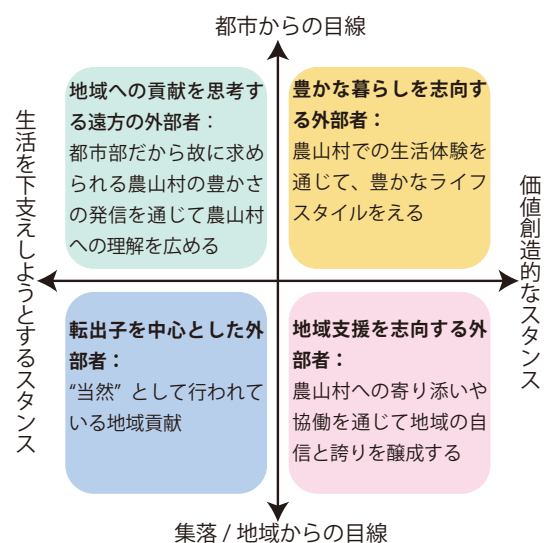
関係人口を考える

多様な「外部者」の考え方

- 自己実現の場としての地域
- 余暇の場としての地域
- 貢献の場としての地域
- 創発の場としての地域

なんのための「外部者」か？

- 地域で楽しんでもらう？
- 地域を知ってもらおう？
- 地域に貢献してもらおう？

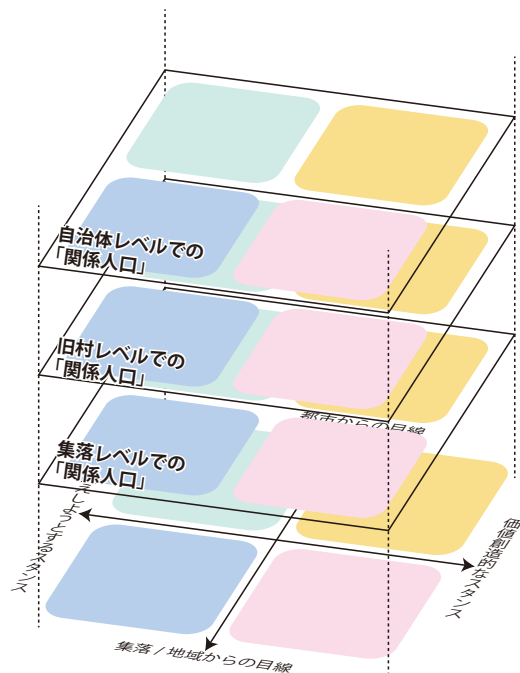


地域として「外部者」に何を求めるかを考える必要がある

徳島大学 田口太郎 / taguchi@tokushima-u.ac.jp

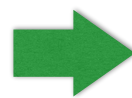
18

誰の関係人口か？



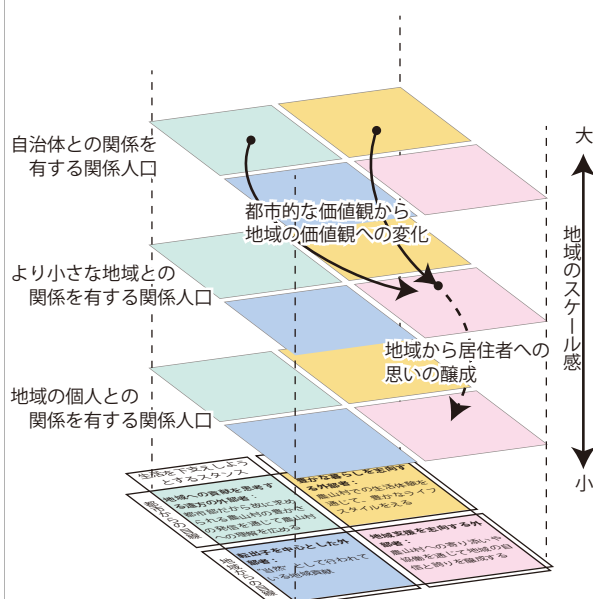
「関係」は間をつなぐもの

- 誰と誰の関係か？
- 行政にとっての関係人口
／地域にとっての関係人口
／個人にとっての関係人口
- 関係性はシェアできるか？



それぞれのレベルで、
良好な「関係先」を考
える必要がある

誰の関係人口か？



「関係」は間をつなぐもの

- 誰と誰の関係か？
- 行政にとっての関係人口
／地域にとっての関係人口
／個人にとっての関係人口
- 関係性はシェアできるか？



それぞれのレベルで、
良好な「関係先」を考
える必要がある

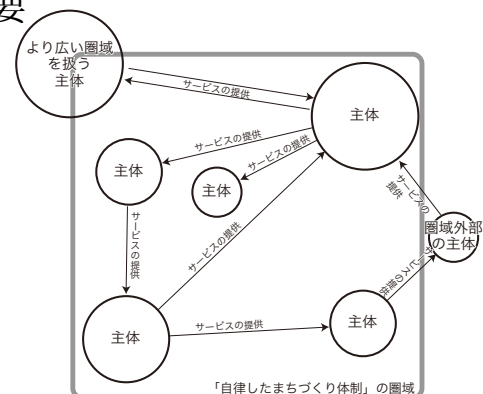
「協働」をどう捉えるか？

カタチだけの「協働」／機能させる「協働」

- 「協働」という名の押し付け合いに陥らない
- 「協働」はお互いを利用しあう関係
 - 相手の長所（特性）を借りて、自らの短所（特性）を埋める
 - 自らの長所（実績）を生かして、相手に提供（貢献）する
- 協働を機能させるには主体性が必要
 - 協働は双方向性が重要
 - 一方通行では依頼でしかない
 - それぞれの主体が自覚をもつ必要

協働の相手をイメージする

- 行政ばかりが協働相手ではない
- 近隣の集落
- 近隣の企業、都市部の企業、etc.



徳島大学 田口太郎 / taguchi@tokushima-u.ac.jp

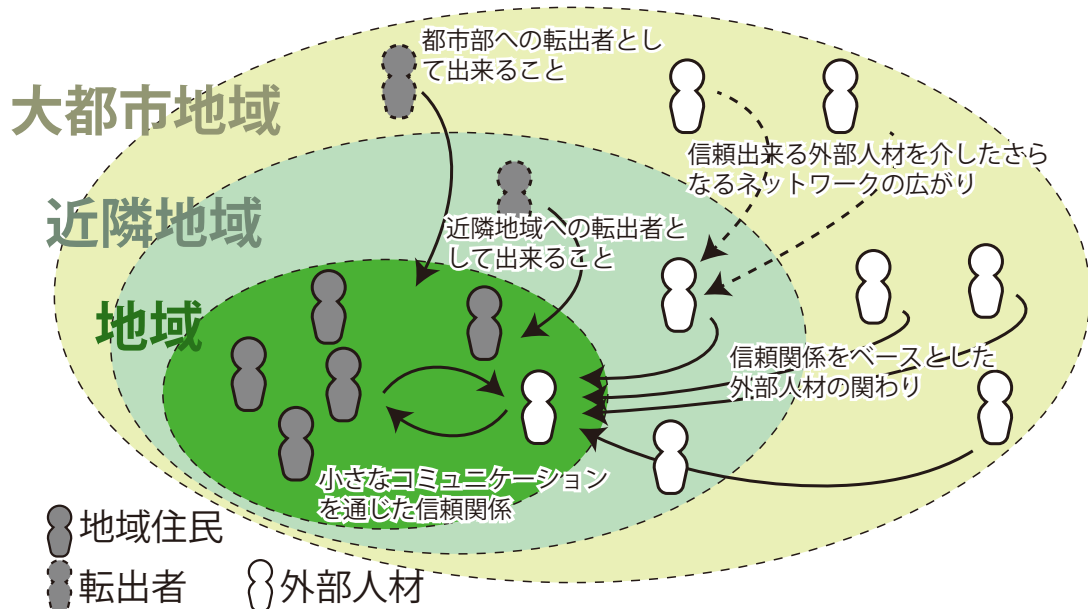
「ネットワーク型自治」の可能性

地域をハブとした人的ネットワークを拡大する

- 「地域住民」「ローカルプライド」を中心に据えた上で、信頼のネットワークを構築する
- 信頼のネットワークを的確に運用することで、地域に必要な力を必要なタイミングで導入する
- 「定住者」中心から、「ローカルプライド」中心の地域づくりへの転換

「ネットワーク型自治」の可能性

◎「信頼によるつながり」の広がり



徳島大学 田口太郎 / taguchi@tokushima-u.ac.jp

23

最後に

改めて考える「地域の自治」とはなにか？を考える

- 地域の身の丈にあった未来の姿とは？
- 地域の現状（住民意識／地域課題）に即した地域づくりとは？
- 地域の自治力を高めるにはどうしたら良いか？

地域づくりの“戦略”を考える

- 地域にとって最も効果的な方策／支援とはなにかを、地域それぞれで考える

“戦略”を効果的にすすめる“戦術”としての「関係人口」

- 多様な人材との関係づくりは、「どのような人材」を獲得するか、という戦術思考が必要
- 「関係人口」との協働を通じて地域がどのようになっているか、という仮説を構築する必要

徳島大学 田口太郎 / taguchi@tokushima-u.ac.jp

24